

# 工藝

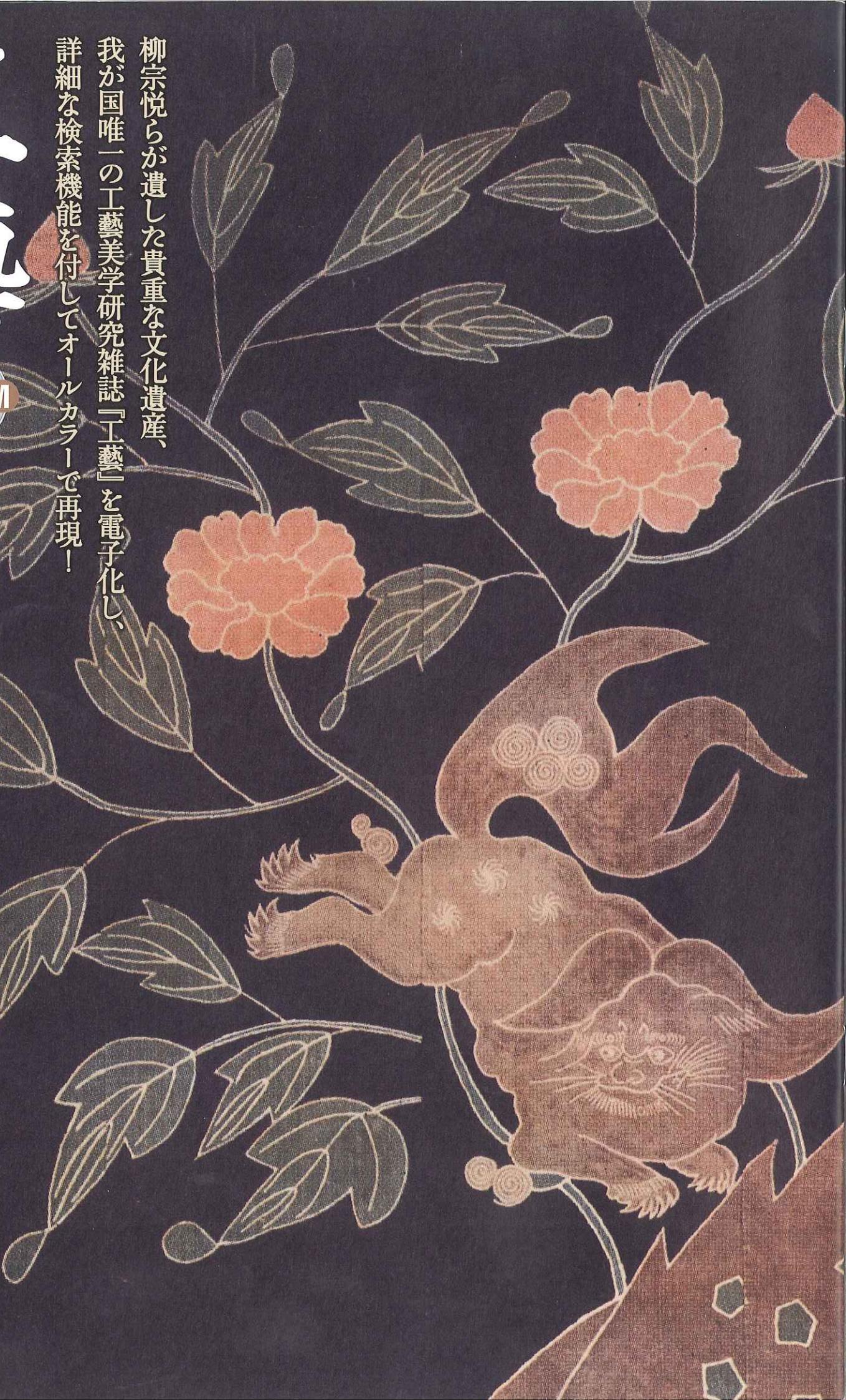


電子版

柳宗悦らが遺した貴重な文化遺産、  
我が国唯一の工藝美学研究雑誌『工藝』を電子化し、  
詳細な検索機能を付してオールカラーで再現！

●監修・解説＝水尾比呂志（日本民藝協会会長）

不二出版



## 巻頭挿絵が彩る「手仕事」の極美



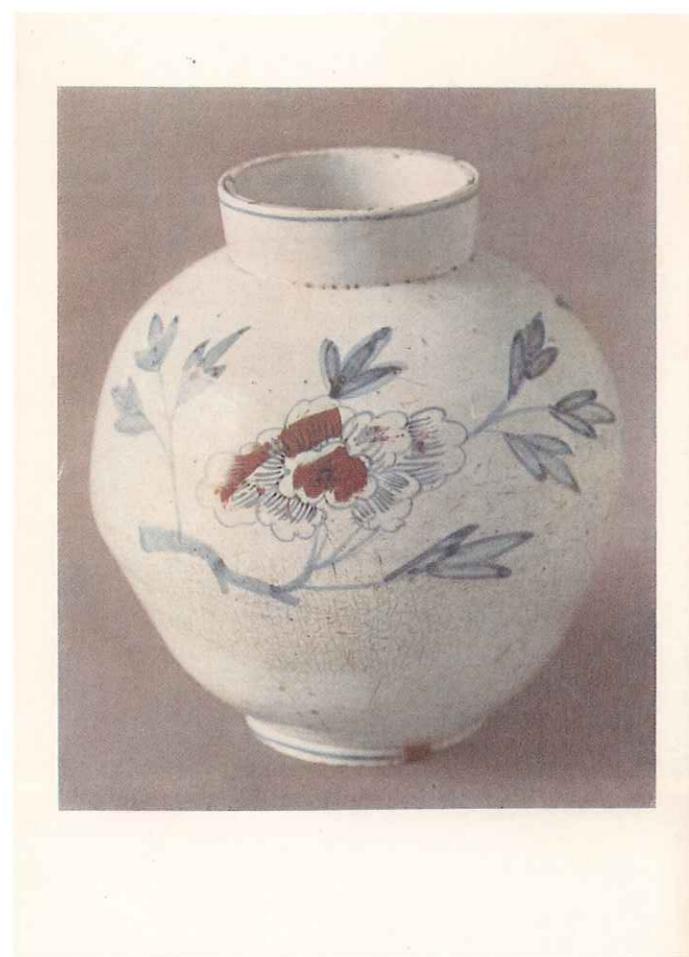
芹澤鉢介作 型染(第53号挿絵より)



支那影絵人形(第90号挿絵より)



アイヌ織物 切伏(第106号挿絵より)



李朝の陶磁器 壺 辰砂入藍絵(第13号挿絵より)

雑誌『工藝』は、民藝研究の創始者柳宗悦が監修し、そのほとんどすべての編輯に携った、民藝分野の啓蒙的研究誌である。わが国近代の、美術分野(絵画や彫刻)に関する研究や知見普及に比べて、著しく立ち遅れていた工藝とりわけ民藝のそれを、一挙に回復せしめる役割を果たした。しかし刊行の部数が少く、戦災でも多くが失われて、今日、実物に接することはなかなか難しい。かつてマイクロフィルム版が製作されたこともあつたが、一般はもとより専門の研究者も、利用には多大の不便さを覚えた。

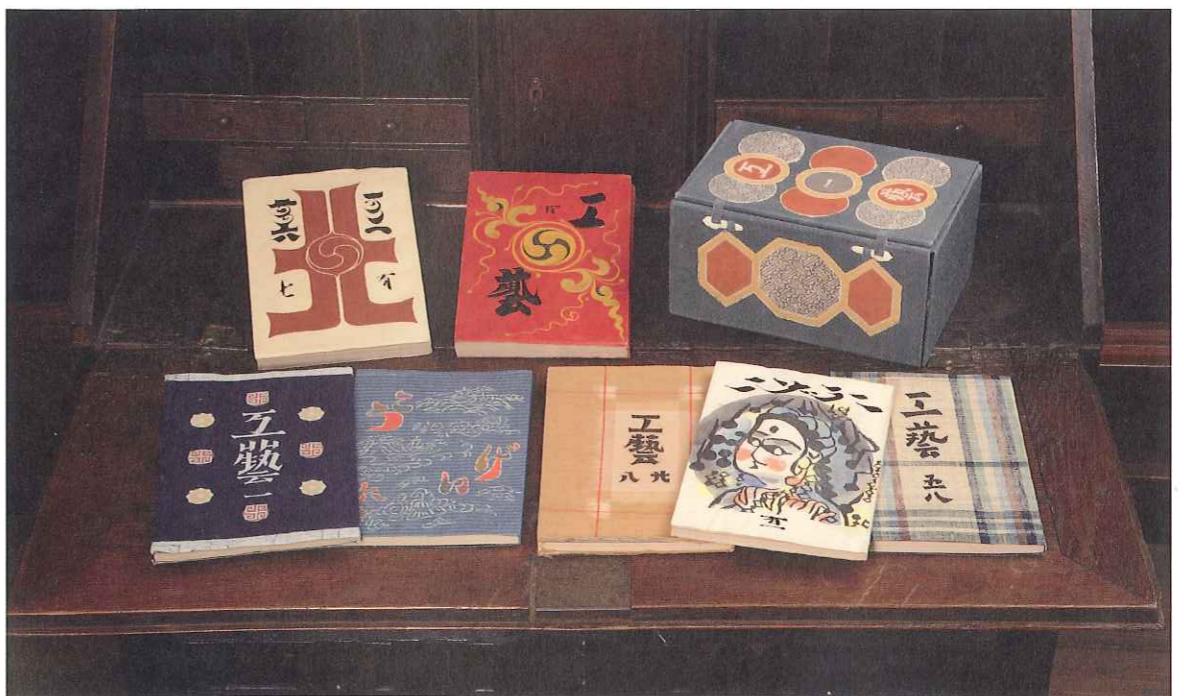
しかし時代は変って、現代の電子技術の発達は、閲読の困難な過去の文献類の活用に革命的な利便をもたらした。この技術により、さきに、世界最長寿の東洋日本古美術研究誌『國華』は、膨大な研究業績の活用を驚異的に可能とした。『工藝』の電子版にも、同様の効果が期待される。

もとより、工藝の鑑賞や研究は、実物に直かに接することが本来であることは言うまでもない。しかしその恵みを容易に享受し難い多くの人びとに対して、また反復閲読の要ある文献や、検索・複製などの需めに応じるためなどに、電子版の対応能力は極めて有能である。この技術を有効に奉仕させるのは、現代文明の重要な任務だと思われる。

『工藝』電子版によって、柳宗悦の念願とした民藝への認識の一般化は大いに促進されるであろう。そして、工藝の美と衆生との結縁がさらに深まることも願い得るであろう。

## 『工藝』DVD-ROM電子版の刊行に当たつて

日本民藝協会会長 水尾比呂志



日本民藝協会所蔵の原誌の一部

## ディスクになつた雑誌『工藝』

財團法人大原美術館理事長

**大原謙一郎**

柳宗悦先生はじめ民芸運動の先覚者たちは、実際に生活の中のさまざまな場面で使われている、名もない工人たちが眞面目に作ったものの中に美しさを見付け、これを日常の中に生かすことを提唱された。そして、自らこれを実践すると同時に、研修や指導の場を通じて普及にも努めてこられた。

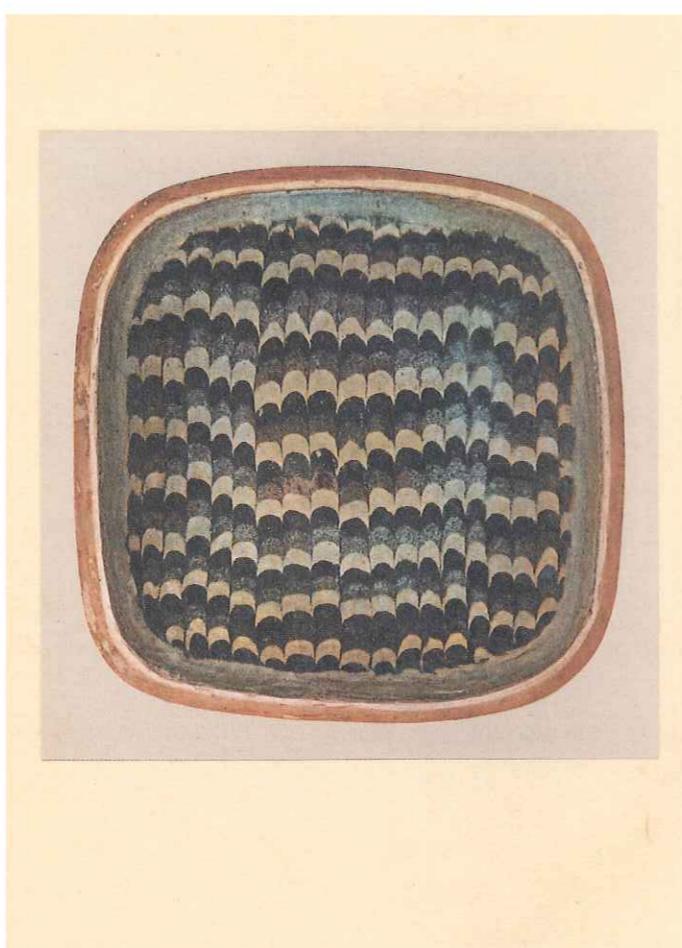
雑誌『工藝』は、その考えを探求し実証する場となると同時に、その理念と私たちの生活をつなぐ貴重な架け橋として多くの人たちに愛され、親しまれてきた。

今回この『工藝』がデジタル化され、昭和六年に発行された第一号から、昭和二六年に発行され『工藝』としての最終号となつた一二〇号まで全冊が、毎号を飾った表紙や民芸の理念を具現化した数々の図版も全て含んで、三枚のDVD-ROMに収録されて発行されることになった。まことに意義深いことだと思う。

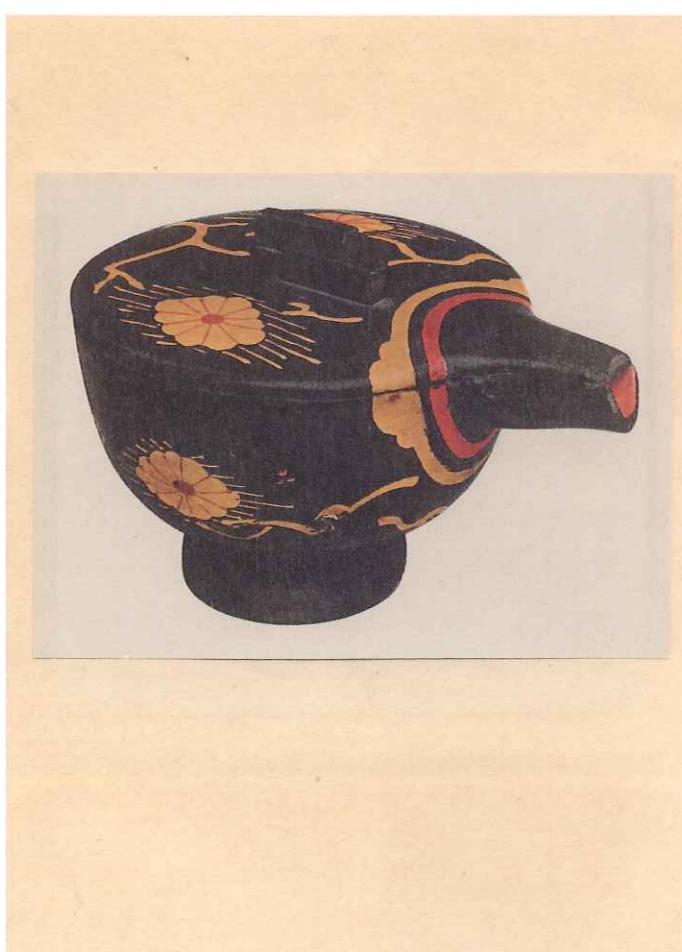
まず、このデジタル化によって、『工藝』の貴重な資料が劣化することなく半永久的に保存されることになった。これは、民芸の研究者にとって喜ばしいことである。

それと同時に、一般の民芸愛好家や美術ファンにとっても、この電子化は歓迎すべきことである。これにより、民芸運動を推し進めた巨人たちの書き残したことや、彼らが見付けていつくしんだものたちを、瞬時に画面に呼び出せるようになったのだから。

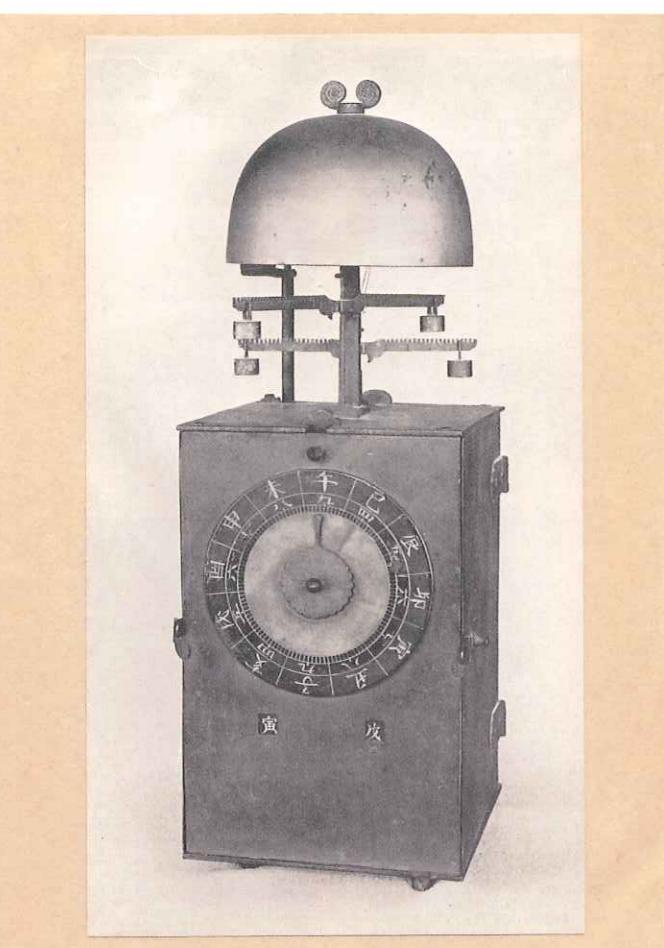
この電子版の出版により、私たちの貴重な文化遺産である雑誌『工藝』の活用の次元が大きく広がることを期待したいと思う。



河井寛次郎作 平鉢(第68号挿絵より)



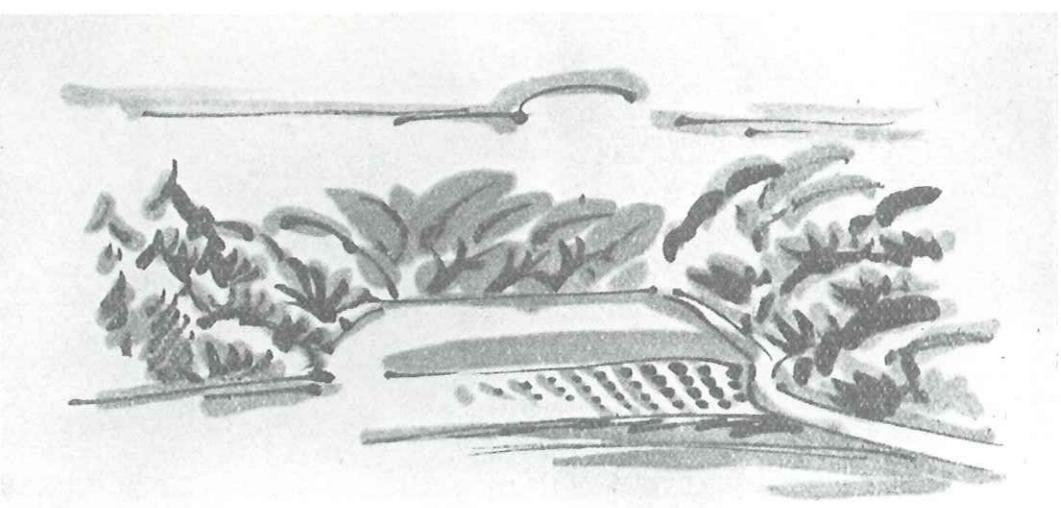
絵漆 提筒(第66号挿絵より)



和時計 掛時計(第86号挿絵より)



東北の民芸 尾花帽子(第108号挿絵より)



富本憲吉作の「駒絵」(第4号より)



「用の美」の健やかさ！

## このひとすじの道

鶴見俊輔（哲学者）

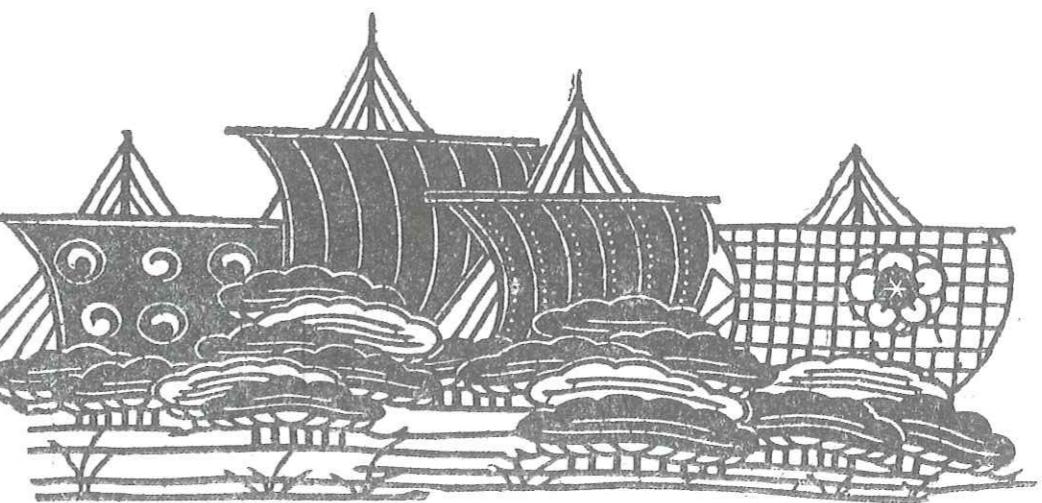
明治元年に、近代日本ははじまる。政府としてはそうだが、日本の文化としては、そうではない。明治元年以前の、とくに手仕事についての伝統に柳宗悦は、眼をひらかれた。そのことが民芸運動のはじまりだった。

雑誌『工藝』は昭和六年にはじまり、『月刊民藝』は昭和十四年にはじまる。両年はそれぞれ、満洲事変（昭和六年）、日中事変（昭和十三年）に踵を接して発足しており、その時代の日本国内部の動きとの交渉の下に発行されて大東亜戦争終戦に至る。この長い戦争に対する柳の態度は『ブレークとホイットマン』のような小部数発行の雑誌の編集後記に明らかであり、大部数発行の『月刊民藝』においては、読み手によって多様に読める。しかし、明治以前からの手仕事を守るという態度で一貫している。

すぐれた手仕事への敬意。そのつくりだした器を心をこめて使う。ぞんざいな生き方をさける。これらのことについての一貫性が民芸運動を支える理想としてつづいた。

それは、敗戦後の日本社会に対して、対立する理想である。

日本の知識人は、明治はじめに欧米の知識をとりいれて以来、○○はもう古いと言いつづけてきて、学習をくりかえしては、卒業することを習慣してきた。その習慣は、米国に負けてその影響下におかれ以来、さらに深まつた。柳宗悦と彼に啓発された民芸運動は、日本の知識人の運動としてはめずらしく、何々は古いと言ってくりかえし卒業する風習から自由であり、戦後からさらに遠くなれた今日の日本文化の中で独自の位置を保っている。



家紋と琉球型紙の小間絵（第19号より）



第28号



第24号



第11号



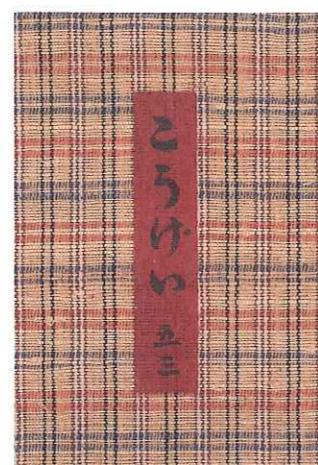
第1号



第70号



第65号



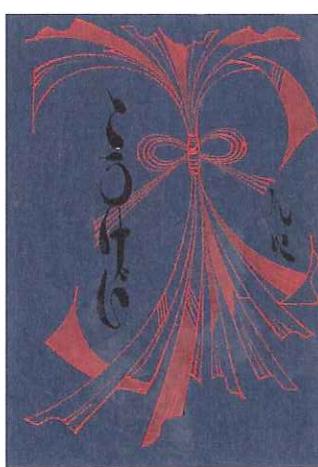
第53号



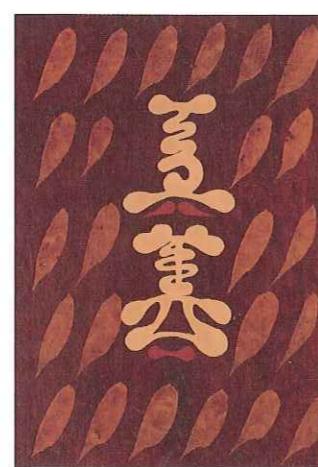
第39号



第96号



第94号



第81号



第73号



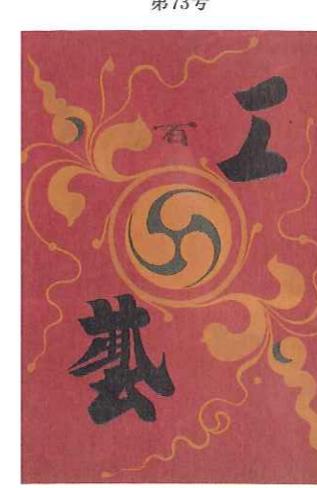
第118号



第116号

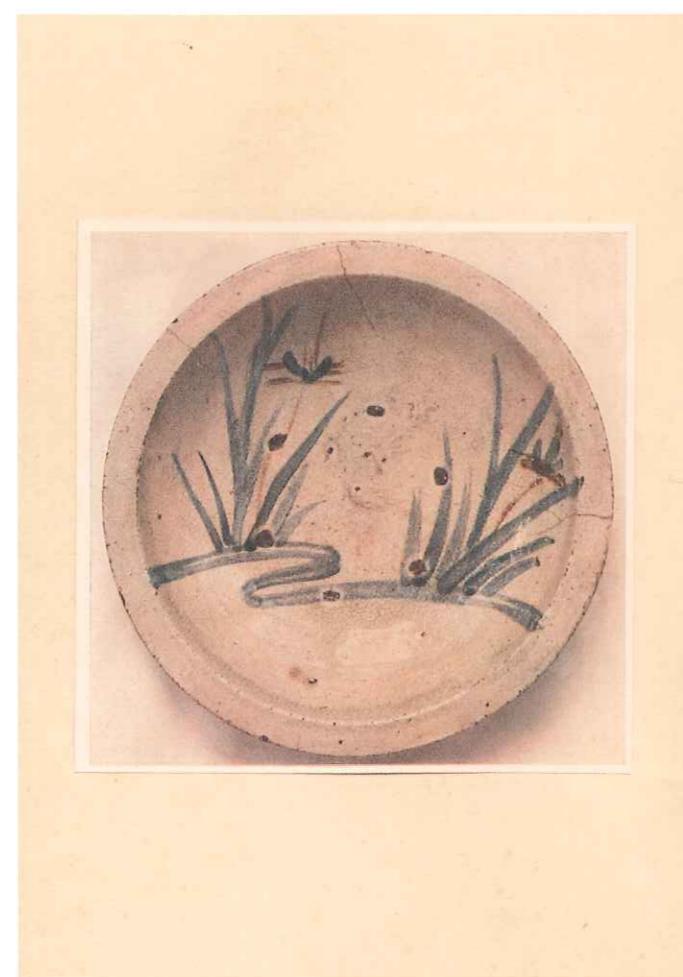
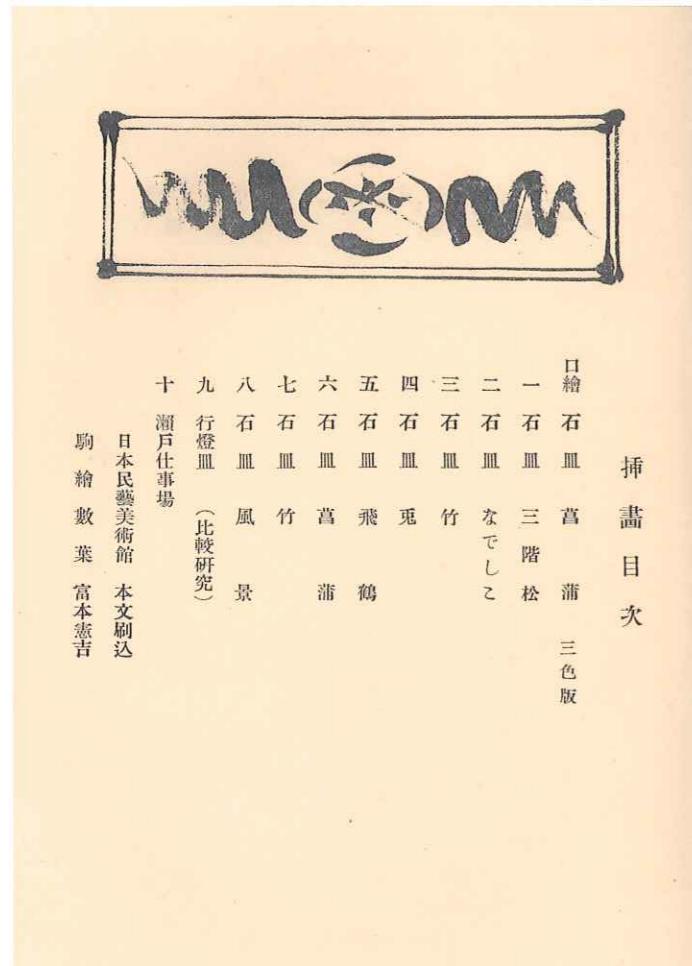


第105号



第100号

創刊号の目次、挿絵目次、挿絵、論文



民藝とは何か

柳宗悅

私は民藝に就て語り出そう。工藝の中でも就中此領域を主題とする雑誌であるから、何を民藝と名づけ、何が民藝であり、なぜ民藝を語るかを最初に書こう。そうして之を發刊の辭に代へたい。

造型美の領域の中で、わけても私達が興味を抱いてゐるのは工藝の世界である。あの學園の美學者達から、「應用美術」と只一言蔑<sup>フツ</sup>。

日本民藝美術館 本文刷込  
駒繪數葉 富本憲吉

駒繪數葉 富本憲

日本民藝美術館 本文

九 行燈皿（比較研究）

風景

民藝	こは何か	柳宗悅
瀬戸家	想行想言	濱田庄司
戸行想言	富本憲吉	河井寛治郎
想行想言	元三	柳宗悦
柳宗悦解說	柳宗悦	柳宗悦
美の標準	石丸重治	柳宗悦
雜挿繪解說	呉昌碩	柳宗悦
美の標準	柳宗悦	柳宗悦

目次

各号「主題

# 『工藝』DVD-ROM電子版の特色と操作方法

- 総14,000頁に及ぶ「工藝」の全容を3枚のDVD-ROMに収録、検索システムインストールディスク(CD-ROM)を併用することにより、現在では入手が不可能なバックナンバーも簡単に検索・閲覧ができます。
- 建造物から紙片にいたる挿絵図版数千数百点(多色刷り挿絵316葉)、工芸美に関する約1,000点の論考をデータベース化しました。
- 工芸史、美術史の授業教材としてカラーデータ画像が威力を発揮します。

## 検索機能概要

検索は「号数から検索」と「項目から検索」の二種類の方法を選びますが、「項目から検索」を選択すれば、さらに「主題から探す」、「標題・執筆者から探す」、「挿絵から探す」の三種類の方法から検索が可能です。

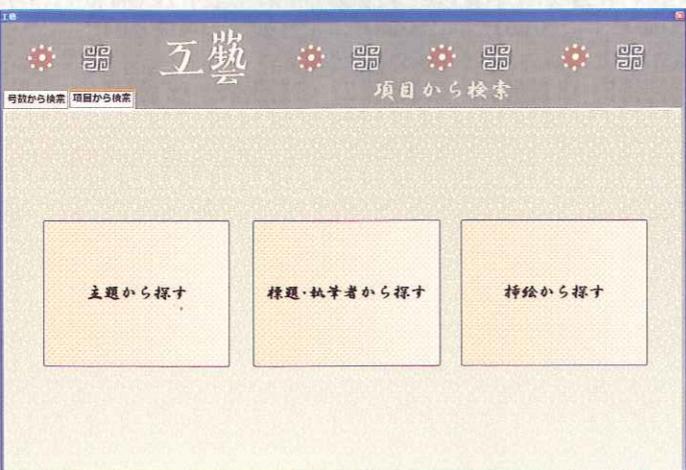
### 号数から検索

発行年と発行月から号数を選びクリックすると対応する冊子の表紙にジャンプします。



### 項目から検索

下記画面から「主題から探す」、「標題・執筆者から探す」、「挿絵から探す」のいずれかの検索方法を選んでください。



## 閲覧画面例と操作方法

検索画面で選択した閲覧画面が例示されています。

画面の右の小窓に該当冊子の表紙が表示されます。

表紙画面下の各種ボタンをクリックすれば、冊子号数の移動、頁の移動、拡大、回転、印刷などが可能です。また、該当冊子が収容、保存されていた帙も表示できます。

さらに、挿絵頁から該当号の挿絵解説頁の冒頭にジャンプすることも可能です。



### 項目から検索①

「主題から探す」を選択した場合

右の「主題一覧」画面が表示されます。一覧から対象データをクリックすると対応する冊子の表紙にジャンプします。

号	発刊	主題
1	1931年1月10日	石瓶
2	1931年2月8日	房園
3	1931年3月5日	自在
4	1931年4月5日	石坊
5	1931年5月5日	茶碗
6	1931年6月10日	丹波布
7	1931年7月8日	北九州の漆器
8	1931年8月1日	柳明子
9	1931年9月5日	脚踏の文字
10	1931年10月10日	山庭の新作
11	1931年11月10日	木工
12	1931年12月10日	牛戸古陶地
14	1932年2月5日	ござん
15	1932年3月10日	金工藝
16	1932年4月15日	土瓶
17	1932年5月15日	鉢

### 項目から検索②

「標題・執筆者から探す」を選択した場合

右の「標題・執筆者一覧」画面が表示されます。

さらに、画面上部中央の標題や執筆者の空白セルにキーワードを入力することにより、絞り込みが可能です。対象データをクリックすれば、該当頁にジャンプします。

号	発刊	標題	執筆者
1	1931年1月10日	石瓶	石井とは何か
1	1931年1月10日	石瓶	作家言
1	1931年1月10日	石瓶	富本吉
1	1931年1月10日	石瓶	河井高次郎
1	1931年1月10日	石瓶	石丸重治
1	1931年1月10日	石瓶	柳宗悦
1	1931年1月10日	石瓶	日本民芸美術館消息
1	1931年1月10日	石瓶	福岡余詩
2	1931年2月8日	房園	大津繪の相談
2	1931年2月8日	房園	河井高次郎
2	1931年2月8日	房園	ばてばて茶
2	1931年2月8日	房園	美の標準 その二 柴野味の茶碗と普通の...
2	1931年2月8日	房園	田中赤穂
2	1931年2月8日	房園	台所
2	1931年2月8日	房園	施捨解説 房園に就て
3	1931年3月8日	房園	柳宗悦
			近松全集
			近松

### 項目から検索③

「挿絵から探す」を選択した場合

右の「挿絵一覧」画面が表示されます。さらに、画面右上の口絵の空白セルにキーワードを入力することにより、絞り込みが可能です。対象データをクリックすれば、該当挿絵頁にジャンプします。

号	発刊	主題	挿絵
1	1931年1月10日	石瓶	白地・石瓶・芭翁
1	1931年1月10日	石瓶	一、石瓶 三輪枕
1	1931年1月10日	石瓶	二、石瓶 振子
1	1931年1月10日	石瓶	三、石瓶 竹
1	1931年1月10日	石瓶	四、石瓶 兔
1	1931年1月10日	石瓶	五、石瓶 飛鉢
1	1931年1月10日	石瓶	六、石瓶 あやめ
1	1931年1月10日	石瓶	七、石瓶 竹
1	1931年1月10日	石瓶	八、石瓶 山水
1	1931年1月10日	石瓶	九、油田(比較研究)
1	1931年1月10日	石瓶	一〇、油田仕事場
2	1931年2月8日	房園	一、小袖房 双手の油瓶
2	1931年2月8日	房園	二、大津繪 三輪枕
2	1931年2月8日	房園	三、大津繪 椅持鉢
2	1931年2月8日	房園	四、大津繪 太夫団
2	1931年2月8日	房園	五、大津繪 芭翁

# 『工藝』DVD-ROM・電子版概要



- 発行所＝聚楽社／日本民藝協会／靖文社／日本民藝協会「工藝」編集室／日本民藝協会
- 収録内容＝第1号（昭和6年1月）～第120号（昭和26年1月）
- 原本提供＝日本民藝協会／日本民藝館
- 体裁＝DVD-ROM 3枚、別冊＝DVD-ROM 3枚、検索システムインストールディスク（CD-ROM）1枚、別冊1
- 別冊＝解説・総目次・索引
- 解説＝水尾比呂志（日本民藝協会会長）
- 推薦＝大原謙一郎（財大原美術館理事長）、鶴見俊輔（哲学者）
- 定価＝本体単価1,000円+税 ISBN978-4-8350-5960-0
- 発売＝2009年12月一括刊行

## ■ LAN対応

本商品はLAN環境でのご利用が可能です。  
その際には別途契約が必要となりますので、  
不二出版営業部までお問い合わせください。

電話 03-3812-4433  
FAX 03-3812-4464

## ■ 動作環境

- コンピュータ本体：Pentium®を搭載したパソコン用
- 対応OS：日本語版Microsoft Windows 2000®以上～
- メモリ：512MB以上（1GB以上推奨）
- ハードディスク：600MB以上の空き容量
- モニタ：1024×768ドット推奨\* sRGB規格対応モニタ推奨
- ドライブ：DVD-ROMドライブ必要

関連図書の「案内



## 月刊民藝・民藝 全12巻・別冊1

日本民藝協会発行（昭和14年～昭和21年刊）

- 別冊＝解説（水尾比呂志・尾久彰三・杉山享司・村上豊隆・白土慎太郎）・総目次・索引
- A5判・上製・総4,930頁
- 本体単価格＝1,80,000円+税
- '08年7月～'08年12月配本完結（復刻版）
- 推荐＝大城立裕・鶴見俊輔・水尾比呂志

『月刊民藝』は、日本民藝協会の機関誌として、昭和14（1939）年4月に創刊。同一七年1月から『民藝』と改称されて同二（一九四六年）七月発行の第七〇号まで刊行された。ただし、第六九号は不詳である。本資料によつて、世界の生活文化史上希有な事跡と考えられるべき民藝運動の、戦時の実情を知る場を拡げるとともに、それを現在の生活文化に照應させて在り様住りを検証するよすがともなる得るだらう。

T 113 3.0023  
東京都文京区向丘1-2-12  
電話03-3812-4433  
振替00160-2-38812-4464  
フアクシミリ03-38812-4464

不二出版

● 表示価格はすべて税別。